

～ドイツに学んだ福島の現状～

こんにちは。僕は、福島県福島市に住んでいる高校2年です。
僕は小学五年生の時に東日本大震災を経験しました。
この地震で多くの人が放射能汚染者になりました。
僕もその一人です。
そこで母が少しでも放射能汚染をリフレッシュさせようと沢山の保養を探してくれました。
僕はぽかぽかプロジェクトの千葉県南房総市に行く保養に参加しました。
その時は小学六年生の夏だったと思います。
その時から僕は毎年ぽかぽかプロジェクトに参加するようになり、高校生になって参加者という立場ではなく、ボランティアスタッフという立場になり、ぽかぽかプロジェクトでお世話になった人たちに恩返しをしています。
僕はぽかぽかプロジェクトで多くのことを学びました。
僕の将来の夢は男性保育士になることです。
ぽかぽかプロジェクトで自分より小さい子供を敬う気持ちや、自分より小さい子供と遊ぶ楽しさを学び、これを仕事にしたいと思い高校も保育が学べる高校に入学しました。
とてもぽかぽかプロジェクトには感謝をしています、そこでぽかぽかプロジェクトの主催者である方からドイツ留学を去年2016年にさせていただきました。
それで、4月21日から5月2日までドイツのレンズブルグに行きました。行った理由は今年でチェルノブイリの原発爆発事故が起きて今年から30年福島の原発事故から5年が経っていてドイツの学校に放射能授業の一環として招待されたからです。
僕が一番印象に残ったことは福島の原発事故の作業員の現状です。
その人は原発事故すぐに復旧作業に行きました。
その人はきっと放射能の影響で復旧作業中に血尿がでました。
でも、放射能被害者として見られ適当な診断をされたりしました。
その人は仮名を使っています。
使っている理由は世間に放射能被害者として見られ原発事故作業員の同僚の人たちが内定が決まっても、辞めさせられたりする嫌がらせをされたりすることが起きるからです。
福島で発電した電気は東京に行っています。なのに、福島の人がガレキを撤去しています。

次に印象に残ったことはチェルノブイリの事故についてです。

僕はチェルノブイリ事故すぐに活動をした医者の方の話です。その人は英語を使って話してくれたんですが早口でよく聞き取れなく曖昧です。

チェルノブイリ事故は世界でも初めてのことなのでどうするかとても難しいことでした。

そこで2つの課題がありました。一つ目は原子炉を止めること。

二つ目は住民を避難させること。でもチェルノブイリ原発事故の直後、初期廃炉活動に携わった70%の人が亡くなってしまい、30%の人が障害が起きてしまったそうです。

そして、このことを学校のみんなの前で話そうとしたところ学年主任の先生の確認で原発事故のことを放射能のことやチェルノブイリ事故死亡者や、影響など言いたいことを全て学年主任の先生にカットされてしまいました。

先生に理由を聞いたところ放射能で被災してきてる人もいるから傷ついてしまうと言われました。

僕は原発事故の危なさなどをしっかり教えないと怖さが全くわからないと思います。

僕はドイツに行きたくさんのことを学びました。そこですごく思ったことは日本では放射能の危険さ原発事故の被害の大きさを教えていないことです。

ドイツの人たちは普段から放射能の授業などを受けていて放射能の危険さを学んでいました。

僕は日本で放射能の危険さや放射線作業員の今の現状をしっかり正確に教えたほうが良いとおもいました。